



FÛ EN  
楓園

CONTENTS

- |  |                     |
|--|---------------------|
| 1 — 特集 『カナダ婦人宣教師物語』英訳本刊行記念<br>「桜プロジェクト」活動開始！ | 9 — 大学 NEWS         |
| 5 — この人に聞く 半藤 将代                             | 12 — 行事報告 9月～11月    |
| 6 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえて幼稚園 NEWS                 | 13 — 学院 NEWS・史料室レター |
| 7 — 小学部 NEWS                                 | 14 — 聖書の言葉・英和探訪     |
| 8 — 中高部 NEWS                                 | 15 — 英和の植物通信・お知らせ   |



■カナダへの感謝を込めて『カナダ婦人宣教師物語』英訳本の刊行—

2010年に発行された『カナダ婦人宣教師物語』の英訳本がこの春、刊行されます。日本語版を読んだ有賀誠—カナダ合同教会牧師たちが、忘れられてしまっている宣教師の日本での功績をカナダにこそ伝えるべきだと、英訳を申し出てくださいました。東洋英和からの感謝を本に託し、カナダ合同教会をはじめとする関係者に贈らせていただきます。

特集『カナダ婦人宣教師物語』英訳本刊行記念「桜プロジェクト」活動開始！

あの方たちが種を蒔いた。  
私たちは木を植えよう。

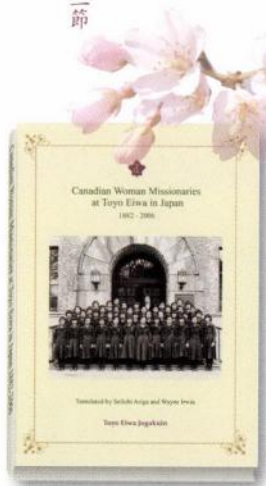
かつて、日本に女子教育の種を蒔いた人たちがいました。  
そして二三〇年後の今、私たちが贈る桜の木はそのお返しです。

主の教えを愛し その教えを昼も夜もロザきむ人。

その人は流れのほとりに植えられた木。

ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。

その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。 詩編 一章二〜三節



上野動物園が開園し、伊藤博文がヨーロッパに

憲政視察に出かけた一八八二年。遠くカナダから

長い船旅をもとめせず、目を輝かせて日本の地

に降り立った婦人がいました。それが東洋英和女

学院の創立者ミス・カートメル。それ以来、日本

にキリスト教に基づく女子教育の種を蒔くため

に、カナダから東洋英和に派遣された婦人宣教師

は一〇〇名を超えます。その教えは東洋英和の土

壤に根付き、大きな花を咲かせています。

その足跡を纏めた『カナダ婦人宣教師物語』を

読むと、生徒たちを包み込む絶対愛の深さに畏敬

の念と感謝の思いが湧きあがってきます。そこで、

ミス・カートメル来日から一三〇年後の今、『カナ

ダ婦人宣教師物語』英訳本が発刊(二〇一二年三

月予定)されるのを機に、ミス・カートメルの故

郷カナダのオンタリオ州ハミルトン市に桜の苗木

を贈る「桜プロジェクト」が発足しました。

種を蒔いてくれた方々へのお礼の気持ちを含め

て、私たちは木を植えようと思います。あなたも、

ぜひ募金にご協力いただき、ハミルトンの街を感

謝の桜色で染めてください。

種を蒔いてくれた方々へのお礼の気持ちを含めて、私たちは木を植えようと思います。あなたも、ぜひ募金にご協力いただき、ハミルトンの街を感謝の桜色で染めてください。

〈桜プロジェクト実行委員〉



カナダ ハミルトン市にあるセンテナリー教会。ミス・カートメルの母教会であるこの教会の近くに新設される公園に、東洋英和からの桜が植えられる計画です

〈桜プロジェクト〉募金のお願い

桜の苗木の購入、将来の維持費の為に協力をお願いいたします。

募金の振込先

郵便振替 桜プロジェクト 00220-0-70086  
ゆうちょ銀行 支店名 〇二九  
支店コード 029 当座 0070086

桜プロジェクト

お問い合わせ先 TEL & FAX 03-3753-6997 (松本)  
発 起 人 石井摩耶子 田中かおる 平尾良子 藤村真弓 松岡裕子 松本幸恵 (すべて同窓生)  
賛 同 者 有賀誠一(カナダ合同教会牧師) 石川和子(前同窓会会長) 伊勢紀美子(元本学教授) 五味澄子(元同窓会会長)  
佐藤順子(前高等部部長) 芝 恭子(本学名誉教授) 堀口雅子(学院評議員・医師)

協力 東洋英和女学院 東洋英和楓の会 東洋英和女学院同窓会

# カナダに桜で「ご恩返し」

感謝を目に見えるかたちで

**松本** 桜プロジェクトが今日まで、不思議なくらいその時々に必要な「人」が与えられて進められていることはほんとうに素晴らしい、感激しながらこのプロジェクトに参加させていただいております。神様が導いて下さっていると強く感じておりますが、まずこの企画の発端をお聞かせください。

**松岡** 私が生徒だった頃は戦後で、宣教師の方は英語の先生というイメージしかなかったのですが、『カナダ婦人宣教師物語』を読んで全く存じ上げなかった宣教師の先生方のことを初めて知り、感動いたしました。ミス・カートメル、ミス・ブラックモア、ミス・ハミルトンはお名前を存じておりましたけれど、そのほかの宣教師の先生方の歴史は全く知りませんでした。ミセス・ラージの大きな写真がありまして、先生の右手が隠されて写っていたのを、おやつと思っただけです。本を読み進んでいきましたら、寄宿舎に強盗が日本刀を持って入ってきて、ご主人は即死、ご自身も額と指を切られたため、それでも先生は犯人を赦すというお祈りをなさって、カナダにお帰りになるのです。けれどその後二回日本にいらして、日本の福祉や女性のために活動なさったというのを知り、胸に迫るものがございます。もうひとつ、マーガレット・クレイ

グ記念講堂は名前の由来も知らなかったのですが、このご本を読みましたら、当時礼拝や集会の時には机をどけて、二階から椅子を下ろし、また終わったら二階に戻っていたので、講堂建設は先生の悲願でいらして、先生が健康を害されてカナダで亡くなられ、先生の遺産と友人たち、ミッションからの寄付で、講堂ができたことがわかりました。そのことを知った後、大講堂で校歌を斉唱しました時、胸がいっぱいになり声が出ませんでした。カナダの方々に感謝の気持ちを伝えるために、このご本の英訳作業が進行中であることを知り、ご本とともに恩返しとして桜並木をお贈りできたらと思われました。私は画家でして、ある絵が売れた際に貯金をおろし、気が変わらないうちに現金をわしづかみにして学院に持って参りました。それを基金の初穂にしたいので、学院全体が協力してくださいました。

**松本** 佐藤先生は中高部「母の会だより」でカナダからの支えに対して「どのような方法でそのご恩をお返ししていくといいのだろうか」と書いていらつしやいました。

**佐藤** 私は東洋英和にお勤めさせていただいて、この学校でなされている教育は素晴らしいと感じて誇りを持って教師生活をしてきました。部長職になってからは学院の年史類を読んで、学院の歴史や宣教師の先

生方がどんな思いでこの学校を建てられ続けてきたか、さつたかを生徒たちに話してきました。そのうちに宣教師の先生方を送ってくださったカナダの教会への感謝の気持ちを、どうやって表していったらいいのかを考えるようになりました。豊かな時代に生きている現在の生徒たちが教育を受けられない、学校もない国や地域の子どもたちに目を向けて、何かできることはないかと考えました。それが今、バングラデシユへの活動として少しずつ根付いていって、とても嬉しく思っています。もともとそのような意味で恩返しということを考えていたのですが、この「桜プロジェクト」の話がうかがって、直接カナダの人たちに、「同胞の方々がこんなことを日本の子どもたち、女性たちにしてくれたのです」という感謝を表せるので、これはいいと思っております。賛同し参加させていただきました。ありがとうございます。

## 有賀牧師、カナダで奔走

**松本** 有賀先生には『カナダ婦人宣教師物語』英訳本のための翻訳、また桜を寄付する予定地であるカナダのハミルトン市に私どもの信書をお届けする際にも大変お世話になりました。市との連絡などもお願いしております。先生はカートメル先生の母教会であ



松本 幸恵  
(同窓会会長)



佐藤 順子  
(前高等部部長)



有賀 誠一  
(カナダ合同教会牧師)



松岡 裕子  
(学院評議員・画家)



芝 恭子  
(本学名誉教授)



「桜プロジェクト」活動開始!



中高部ではカナダで大学で子どもとカナダとの交流が行われています。



**芝** 学んだ学校はトロントです。その時スクルトン先生を訪ねてハミルトン市を訪れたことがあります。松岡さんから「桜プロジェクト」のお話を伺った時、景観を作りたいということは、次の世代のためにやるべき素晴らしいことだと思いました。有賀先生がいらつしやらなかつたらと思うと。先生の存在は天啓です。ということはつまり私たちの願いは神様から祝福されたという思いがいたします。

**有賀** それは間違いないと思いますよ。今芝先生がおつしやられたようにハミルトン市長も「Beauty this City: that's wonderful idea」という反応をしています。そこですでにスピリットがつかっています。

**一同** 素晴らしい!

**松本** 私もご本を読んで、ルートンに戻り自分の学校を知り、指針が与えられました。楓園五九号でこの本が

特集になった時、小学部部長の山本香織先生の「大いなる物語は未来に向かって今も進んでいます」との言葉が忘れられません。物語の続きは今を生きる私たちに託されているのではないのでしょうか。一人でも多くの同窓生がまずこの本に触れてほしいという思いが強くなります。本の感動から想いを一つにして行けたら、そしてその方の人生の中で東洋英和に学んだことが、幸福で誇りであつたと思えたら素敵だと思います。

**佐藤** 先日、創立記念日の時の現・旧教職員の方々の会食の折に、「これだけの宣教師の先生方が魂を注ぎ込み命をかけてお働きになった学校に連なっていることを感謝の思いとしてプロジェクトにご参加ください」と話しました。また卒業生にも宣伝して下さるようお願いしました。今までカナダに対しては何もしていません。愛校心を持つことができる学校がここにあることに對して、具体的な「桜の木」をもって感謝の気持ちを表したいのです。

**有賀** 皆さまのお気持ち反映されるようカナダ側として努力したいと思います。東洋英和はカ

ナダ人が忘れてしまっている宣教師の先生を尊敬の念を今もって覚えている学校です。それが素晴らしい。「カナダ婦人宣教師物語」を英語にして、カナダ側になんらかのインパクトを与えたいと思っています。この一連の動きはキリストと一緒にいたから起こっていると思えます。カナダに桜が来ること、生徒・学生たちが来るということは大きなことです。人的交流が途絶えると、理屈だけで理解したり、誤解したりしてしまいます。これからは生徒、学生、先生、卒業生をカナダに送ってください。カナダも改めて認識を深めましょう。

**松岡** 「カナダ婦人宣教師物語」はよその学校の方も感激してくださいます。

**有賀** 私は二重に感激しました。立派な宣教師を高く評価し、このスピリットを受け継いでいかなければいけない、と思つている東洋英和に感動しています。

**佐藤** そういう意味で創立記念日を休みにせず礼拝をし、原点に戻ることが意味のあることではないでしょうか。

**有賀** 本当にそうですね。単なるノスタルジーではなくて、このスピリットを現代にどう活かしていくかが重要ですね。

**松岡** 贈る桜の苗木は赤ちゃんでも、そのバックグラウンドのストーリーは、ものすごく長い歴史と素晴らしいお話が盛り込まれているので、ハミルトンの宝にしていただけかと思っております。

**有賀** 桜を贈ることは東洋英和ならではの発想ではないかという気がします。今までのいろいろと見えていますと日本の学生など

はしてくれた人に直接お返しすることが多い。しかし桜の話は次の世代、また次の世代という将来に向けて何かお返しをするという感覚で、一般の日本人とは違う気がしています。キリスト教の感覚かもしれせんね。

**芝** 日野原重明先生がよど号事件で命が助かった時、奥様が「いつの日か、いずこの場所かで、どなたかにこのうけました大きなお恵みの一部でもお返しできればと願っております」というご挨拶をお書きになり、「彼女の篤い感性に私は打たれ、強い感動を覚えました」と、先生はある新聞に寄せていらつしやいました。

**一同** 同じ精神ですね。

**芝** 大学の保育子ども学科のフィールドワーク先の一つが、カナダのハミルトン市です。センチナリー教会にも行ってあります。大学の学生たちは、もしハミルトンに桜の木が植えられましたならば、自分たちの目指そうとするところに美を加えた、素晴らしいイメージをもって成長していつてくれると思います。学科を異にする卒業生も世界に出た時、東洋英和の精神がハミルトンで花開いていたら、目に見える感謝のしるしと自分を結びつけて、いい人生を歩めるのではないかと思っております。

**松本** ほんとうに今日は、素晴らしいお話をたくさん聞かすことができて、感謝です。ありがとうございます。桜が美しく咲く日を想像しながら皆様のご協力を頂き、「桜プロジェクト」を進めて参りましょう。

二〇二二年二月九日

同窓会館カーネットハウス鳥居坂にて

## メープルの校章に感謝をこめて

カナダとの不思議な縁に導かれて

誰にでも、後から自分の人生を振り返ってみて、しみじみ不思議に思う縁があるかもしれません。私の場合は、それがカナダとの繋がりです。縁の始まりは、東洋英和女学院中学部に入学したこと。勿論、当時はそれと気づくはずもありませんでしたけれど。

大学を卒業した私は、とにかく海外に出て異文化を知りたいと思い、まずトラベルライターの仕事に就きました。ヨーロッパをはじめ、アジア、オセアニア、アフリカ、北極圏など世界数十カ国を旅して、様々な人々や風景に出会いました。アメリカでもいくつかの都市を訪ねましたが、正直なところカナダには特に関心があったわけではありません。

やがて、ある新聞社の仕事で、カナダのアルバータ州にあるロイヤル・ティレル古生物学博物館監修の恐竜博を日本に持ってくると

いうプロジェクトに携わりました。はじめてカナダのスタッフと仕事をし、友人もできました。その後三年間アメリカ企業に勤めましたが、不思議とまたカナダの仕事に戻ることになります。現職のカナダ観光局広報です。

観光局に就職したのは十二年ほど前のことですが、今度こそ、とうとう私もカナダの魅力のとりこになりました。カナダの素晴らしさは、競争より共生を重んじるパランス感覚に優れたところ。他者をありのままの姿で受け入れる包容力こそ、世界で最も住みやすい国のひとつといわれる所以でしょう。私自身、カナダに滞在する度に感じる心地良さは、「素のままの自分で良いのだ」という安心感。大都市でさえ、すぐ傍に大自然がある開放感。親切で大らかなカナダ人たち。マーケットに並ぶ野菜や果物までが生き生きと笑いかけようとする。心の底からリラックスして、元気になれる場所。カナダにいると、生きることは、

それ自身が楽しいと思えてきます。

英和に連なる者として

カナダだからと意識して選んだことは一度もありませんが、気がつけば、なんと人生の大半でカナダと繋がっていました。いつの間にかカナダ人と結婚し、二人の子供も授かりました。そして、二〇〇八年の『赤毛のアン』出版一〇〇周年では、英和の同級生だった村岡恵理さんと再会し、一緒にお仕事させていただいた縁で、久しぶりに母校を訪ねる機会に恵まれました。『赤毛のアン』はカナダ人作家モンゴメリがプリンス・エドワード島を舞台に書いた作品ですが、恵理さんは英和の卒業生で『赤毛のアン』を翻訳した村岡花子さんの評伝『アンのゆりかご』を出版されました。第二次世界大戦中に日本を去る際、カナダの友人で宣教師のミス・ショーが万感の思いを込めて『赤毛のアン』を花子さんに託したエピソードには胸を

打たれました。

さらに、二〇一〇年に英和が刊行した『カナダ婦人宣教師物語』を読んで、海を渡って日本の女子教育、幼児教育に人生を捧げた多くの宣教師たちの情熱と献身を知り、英和創立から現在に至る物語に深い感動を覚えました。中学部時代に英語を教えてくださいました口ジャース先生やブラウン先生はカナダから派遣された最後の宣教師だったので！

私たちは何と多くの方々の善意と献身に支えられ、何と多くの愛を与えられていたことでしょうか。無知で不遜な英和生だった私にも、卒業後二十数年かけて、そのことを学び感謝する機会を神様は与えてくださいました。カナダから海を渡り日本のために命がけで働いてくださった先生方。その貢献によって築かれた友情と信頼。日本とカナダを結ぶ友好の架け橋をより多くの人たちに渡ってもらえるよう、私も微力ながら日々の仕事に励みたいと思っています。



一九八六年 高等部卒業 半藤 将代

はんだう まさよ

一九九〇年早稲田大学第一文学部文芸学科卒業。トラベルライター、企画編集を経て、グローバル企業でマーケティング・コミュニケーションを担当。一九九九年よりカナダ観光局メディア・広報マネージャー。カナダ各地の魅力や文化を日本に紹介する他、テレビや新聞、雑誌などのマスコミ取材をアレンジ。二〇一〇年バンクーバー冬季オリンピックでは、現地のメディアセンターにてメディア対応や情報提供等のサポートを行った。



2009年、カナダのプリンス・エドワード島州の観光大臣（当時）が東洋英和女学院を訪問したときの記念写真（中列左から二人目が筆者。そのななめ前が同級生の村岡恵理さん）

## 初めてのトラックリレー

初めて経験することは、すべてが順調に進むとはいきません。

今年度、年長組は今まで園庭で直線を折り返してくるリレー競走をしていました。今回はステップアップして、園庭にできるだけ大きく、白線で楕円のトラックを書きました。このリレーでは、カーブしているコーナーを回り、しかも、次の走者が前の走者から後ろでバトンを受け取らなくてはなりません。

年長のいるか組とくじら組に分かれ、はちまきをし、アンカーはタスキをかけ、「エイエイオー」の掛け声をかけ、リレーのスタートです。最初は様々なハプニングがありました。隣のコースの子どもがバトンを受け取り走り出すと、まだ自分は受け取っていないのに走り出してしまう子ども。誰に渡せばいいのかわからなくなり、走り終わって応援している子どもにもバトンを渡してしまう子ども。前の走者が近づいているのに前方を向いたままボーンとしてしまう子ども。白線の内側に入ってしまう子ども。逆にコーナーが回りきれず「あれ？」と言いつつ大回りしてしまっている子ども。このような調子で、一回目のトラックリレーは大混乱の中終わりました。教師は子ども達の誘導で大忙しでしたが、子ども達は満足して「もっとやりたい」と意欲的。

一週間後に二回目のリレーをしました。途中で庭靴が脱げて走りつづけた。白線の内側に入ってしまうこともなく、前走者の位置を確認しながら迫つてくると手を出しバトンを受け取る姿もみられるようになりました。両チームが抜きつ抜かれつすると自分のチームへの声援も大きくなり、真剣さが増し、白熱したリレー競走になっていきました。

初めての体験ではうまくいかないことでも、経験の積み重ねでやり方がわかり、更に、みんなで力を出し合うことの楽しさが味わえるようになります。これからも勝ったり負けたり、喜んだり悔しがったりを経験しながらリレーを楽しんでいきたいと思えます。



## イメージを共有して遊びを創造する子どもたち ~絵本『エルマーのぼうけん』より~

2011年秋、年長組の子どもたちは絵本『エルマーのぼうけん』（福音館書店）が好きになりました。やがてエルマーのようにリュックサックをしょって、ぼうけんに出かける子どもたちが様々な場で見られるようになりました。



リュウと一緒に...



びよんびよこ岩をわたって...



リュックサックをしょって「どうぶつじまへいこう」(詞・曲 板倉志伸)を歌い、気持ちを合わせる子どもたち



積み木でつくったりゅうの家



「リュウに乗ってぼうけんに行こう」と、自分のリュウを作ります



「今日はどこへぼうけんへ行こうかな」

# おいもほり

小学部教諭 坪田 恵梨菜

今年も二年生の生活科では、校外学習でおいもほりに出かけました。九月から秋のお野菜、さつまいもについて、子ども達は学びを深めてきました。皆口々に「早くおいもほりに行きたいな」「早くおいもほりの日が来ないかな。」と、心から楽しみにしているようでした。

十月下旬にして夏日を記録した日でしたが、暑さの心配をよそに、目を輝かせて一生懸命にさつまいもを掘る子ども達の姿を見て、実際の体験こそが一層成長させているのだと実感しました。

経験する機会の減っている土の感触。虫との出会い。そして「先生、見て見て!」と、宝物を見つけたかのような嬉しそうな笑顔。これら一つひとつが、神様が与えてくださったものだだと確信しています。



永野農園に到着。永野さんからお話を伺います



靴下をはいて、おいもほり準備は万端です



いよいよおいもほり開始。ふかふかの土をかきわけて…



こんなに大きなおいもがとれました



楽しいお弁当のあとは、木登りや落ち葉遊びをしました

## 児童の日記より

わたしたちはせん川にあるなが野のう園に行きました。さつまいもほりはじめてですが、ようち園の時にじゃがいもはほったことがあります。そこでわたしは、じゃがいもとさつまいものちがいはっ見しました。じゃがいもは色いろなところにごろごろあるけれど、さつまいもにはつるがあつて、どんどんほつていくとさつまいもがくつついてきます。わたしはほつていると中で、何のよう虫かわかりませんが、顔がオレンジ色で体が白いよう虫を見つめました。虫がきらいなわたしは思わず、「よう虫だあ。」と言つてしまいました。そうしたら公文先生がにっこりわらつて、「虫がいるほといい土ですよ。」と言つて下さつたので安心しました。土をさわるのはとても気もちよかつたです。わたしは坪田先生が、「おわりですよ。」と言つまで、ずっと一生けんめいにほつていました。五つもとれてとてもうれしかつたです。すこく楽しかつたので、もしできたらまたさつまいもをほりたいです。

今日はおいもほりに行きました。朝、リュックをしょつて学校に行きました。れいはいをしてら出ばつです。なが野のう園につき、おいもをとります。わたしは楽しみでしかたがありませんでした。おいもをとつたら数を数えました。大きいのが一つ、中くらいが一つ、中くらいと小さいの間くらいのが一つ、そしてちびいもちゃんがつつの、全部で四つでした。学校でするやきいも用に一人一つはこに入れて下さいと言われていたので、わたしはしかたなく中くらいのをさし出しました。そして三こを家にもち帰りました。これで安心です。おいもが少なくてお母さんがおこつても、おいもでハンコを作って、おかあさんのおでこに「ベッターン。」とつけられると思ひました。とても楽しかつたです。

# 英和生が国体に出場！ それぞれが素晴らしい成績を残しました

毎日の学業のかたわらで、さまざまな分野で活躍している英和生たちがいます。今回は国体（国民体育大会）に出場した一人を紹介します。

## 山口国体フェンシング競技に出場して

中学部3年 宮脇 花綸

「国体」は正式には「国民体育大会」と呼ばれ、今回の第六六回大会は山口県での開催となりました。国体のフェンシング競技では、都道府県ごとに代表選手による三名のチームを組んでたかいます。私が出場したのは中三から高三までの「少年」と呼ばれるカテゴリーで、今年から参加資格が得られる年齢になりました。これを超えるもう一つの年齢のカテゴリーは「成人」と呼ばれます。

国体に出るためには、まず東京都の代表選手三名のひとりに選ばなければなりません。東京都にはオリンピック選手の養成機関である「エリート・アカデミー」があるので、そこから四名の選手が参加して、代表選手選考会が行われました。特にエリート・アカデミーの高二、高三の三選手は全国高校体育大会（インターハイ）で優勝している実力者でしたが、なんとかその一角に食い込む形で代表選手になることができました。

行ってみると、国体は独特の雰囲気でした。まさに「お国とお国の戦



実動3分間で5本勝負（片方の選手が5本先取で勝ち）の紅白戦



同じく中学3年で国体初出場し入賞した他県の友人達と記念写真（左が筆者）

い」なのです。大勢の応援団が自分の県を応援しようと会場を埋め尽くしています。ただでもプレッシャーが大きいのですが、試合方法は五本勝負の短期決戦（通常は一試合一五本あるは一〇本勝負）を三試合（一人一試合だけ行うという独特なもので、三人のチーム・メンバーがそれぞれ相手の誰に当たるのかという運の要素も大きく、実力通りの結果にならないことがよく起きます。

東京都は最終的には全国第七位入賞という成績でした。結果も喜ぶべきなのですが、独特な雰囲気の中で、高二や高三の先輩方とチームを組み、事前には合宿も行い、ともにたたかうという経験はかけがえない思い出となりました。二〇一三年には東京で国体が開催されます。その時もぜひ選手になり、優勝目指して頑張りたいです。

## 山口国体馬術競技に出場して

高等部1年 森岡 育海

私が乗馬を始めたのは、毎年滞在する那須で小さい頃に乗馬をしたのがきっかけです。那須の乗馬クラブには目がとめて綺麗な馬がいて、私はその馬に乗りたいたいと思いました。その馬は痛に侵されていいて騎乗はできませんでしたが、その時から馬に特別な思いを持ち、中学生になり国民体育大会に出場することを目標にして馬術障害競技を真剣に始めました。

最初の頃は何度も落馬をし、馬に踏まれたり噛まれたりとアザや怪我の絶えない日々でした。そして愛馬のゴールドファイブと出会いました。ゴールドファイブは頭の良い馬ですが、人間が嫌いで触ろうとすると噛まれました。私は、いつか気持ちが通い合える日がくると信じて馬の気持ちを大切に接してきました。そして今では嬉しそうに甘えてくるほどになり、信頼できるかけがえのない存在になりました。

山口国体の東京都代表の選考試合は昨年からはじめましたが、一つひとつの試合を大事にしてきました。失敗したり馬の調



少年スピードアンドハンディネス競技にて



少年団体障害飛越競技 3位入賞、表彰式にて（一番右が筆者）

子が悪い時もありましたが、そういう時の悔しい気持ちは全て馬に伝わるので、悟られないように次に切り替えるようにしました。そして代表に選ばれた時は本当に嬉しかったです。その上関東ブロック大会で東京都が一位通過したので、メンバー全員で山口本国体に行く事ができました。長い道のりでしたが代表選手皆と馬の力が合わさった結果で、東京都が優勝することができました。私は今回の国体出場を通して責任、絆、信頼などの多くの事を学びました。私とゴールドファイブがお互いを支え合った、とても価値ある一年間であり結果です。応援してお支え下さいました学校や先生方、友人、乗馬関係の方々やコーチ、両親に感謝の気持ちで一杯です。来年、再来年も出場できるよう愛馬と共に頑張ります。

2011年 第66回 山口国体 成績		
宮脇 花綸	フェンシング	東京都チームで出場、7位入賞
森岡 育海	馬術	東京都チームで出場、総合優勝
		東京都チームで少年団体障害飛越競技に出場、3位入賞
		東京都チームで少年リレー競技に出場、4位入賞

# 大学かえで祭から学生たちが学ぶもの

—2011年度かえで祭「Energy」をふりかえって—

## かえで祭実行委員会 委員長より

大学で何をしたら聞かれたときに自信を持って答えられるようにしたいと思い、実行委員になりました。今まで責任ある立場に立ったことがなかったので不安は大きかったのですが、実行委員のメンバーに支えられてどうにか務めることが出来ました。どういった声掛けをすれば皆がやる気を出してくれるか、責任感を持ってもらえるかという点では苦勞しました。当日、実行委員が活躍する姿や来場者の方が楽しんでくださっている姿を見ることができ、今年度のテーマである「Energy」に込められた私たちの願いが、

人間科学部人間福祉学科3年 瀬川 莉紗子

目に見える形で実現できたのではと思います。活動を通じ、人の上に立つという責任の重さ、皆で一つのものを作り上げる面白さを日々痛感し、大変充実した体験をさせていただきました。最高の仲間と一生モノの思い出を得ることができ、心からやってよかったと思います。



## 副委員長を経験して感じたこと

私は1年次コンサートセクションに所属していますが、3年間続けようと思っていたのですが今年度1年だけ副委員長の仕事をさせていただくことになりました。担当した仕事はネイルアートの企画で、外部のプロの講師の方と、メニューや価格などの話し合いをすることです。自分一人で全ての企画から実行まで行うので最初は心細く、責任感が重くのしかかり不安で仕方がありませんでしたが、

人間科学部人間科学科2年 丸山 明日香

前年度の副委員長の方や委員長、周りの友達や幹部の方々の支えがあり無事に仕事を成し遂げることができました。たくさんの支えとともに、自分がいかに恵まれた環境にいるかも実感することができ、良い経験になったと思います。ひとつのことを継続することも大切だと思いますが、様々な経験をすることも大切だということを学ぶことができたことに感謝しています。

## かえで祭を終えて

私は、副委員長としてキャンパスラッチバックの販売を担当しました。春から企業の方と打ち合わせを重ね、より良いものを多くの方々に提供できるよう努めました。セクションから離れた個人での活動であったため、不安や苦勞を抱える

人間科学部人間科学科2年 諸橋 琴子

こともありました。しかしそれ以上に、多くの出会いや経験から自身を高めることができたと思えます。今このように感じられることに喜びを感じるとともに、実行委員であることを誇りに思います。

## 140名からのスタッフが活躍—かえで祭実行委員会の仕事—

国際社会学部国際社会学科 准教授/学生委員会委員 澁谷 隆良

大学では今年度も11月2日と3日の二日間、かえで祭が開催されました。今年度のテーマである「Energy」には、東日本大震災からの復興への祈りとともに、かえで祭を通じて人々に笑顔と活力を与えるという実行委員会の願いが込められています。今回は、かえで祭の縁の下の力持ちである実行委員たちの活動の様子、さらにはそうした活動を通して彼女たちがどのように成長しているかについて紹介したいと思います。

実行委員会は140名を超すメンバーで構成され、総務・講演会・コンサート・後夜祭・渉外・広報の6つのセクションに分かれ、4月から活動を開始します。かえで祭本番の半年以上も前の段階から、準備のための作業を懸命に行います。

各セクションは経験を積んだ上級生が引っ張っていきますが、入学して間もない1年生にも仕事が与えられます。仕事の中には臨機応変に対応しなければならないものもあり、自分

で考えて対処する力が求められています。その他にも、責任感が養われたり、交渉力が培われたりと、社会に出たときに役立つ能力が身に付くことは間違いないようです。

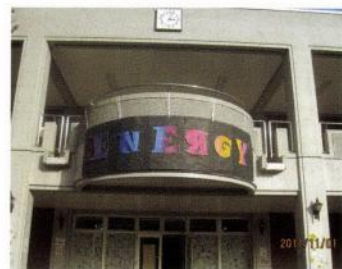
最後になりますが、パンフレットやポスター1枚ずつ、出展されているお店の並びかた、設置されているゴミ箱といった何気ない一つひとつに実行委員の想いが込められていることにも目を向けていただければ幸いです。



## かえで祭テーマ「Energy」の由来

かえで祭では、たくさんの英和生が元気いっぱい活躍しています。そういった英和生のエネルギーを存分に感じていただき、来場者の皆様に元気を与えたいという思いから今年度のかえで祭のテーマは、「Energy」と決定致しました。

昨年3月、東北地方は大変な大災害に見舞われました。少しでも力になりたいという思いから募金箱の設置をしました。また、パンフレットの質を落とし、浮いた差額を義援金として日本赤十字社を通じて寄付致しました。皆様の温かいご支援、ご協力ありがとうございました。



## かえで祭を通して得た、成長・苦労・学び

国際社会学部国際社会学科国際コミュニケーション専攻3年

野島 万里江

講演会セクションは、タレント・作家など様々な分野のゲストをお招きし、講演会・トークショーを開催しています。今年は、タレントのDAIGOさんをお迎えしました。

チーフの仕事を通し、1・2年生の頃には感じられなかった「人と人との支え合いの大切さ」と「一つの物をみんなで作り上げる達成感」をどの時よりも強く感じました。今回のトークショーが成功したのは、紛れもなく支えて下さった多くの皆さんのおかげです。セクションを問わず実行委員の皆さん、学生支援課の皆さん、そして誰よりも近くで支えてくれた講演会セクションのメンバーたちに深く感謝しています。この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



## 新しい最高の後夜祭を創り上げる！

人間科学部人間科学科臨床心理・社会心理専攻3年

田名網 ひかり

後夜祭とはかえで祭を締めくくる、お笑いライブやミズコンなど多くの企画を盛り込んだイベントです。私達はイベント運営の業者と協力し、一つのものを作っていきます。どの業者が一番私達の要望に応じてくれるか、予算が一番合うのはどの業者なのか仲間と何度もミーティングをしました。今年度は今までと違う業者に決定し、不安もすごくありましたが、新しい最高の後夜祭を創り上げられたと思っています。それはメンバー一人ひとりの力と業者の皆さんのおかげだと思っています。



## 総務チーフとして活動して

人間科学部保育子ども学科2年 高橋 彩夏

総務セクションは、食品・テント・車輛の3つの大きな仕事から成り立ち、かえで祭に参加する全団体の運営・管理をしています。私自身2年でチーフになり、不安なこともたくさんありました。4月から参加団体に説明会を始めましたが、うまく伝わらないこともあったり、仕事をしていく中で、問題もたくさん出てきました。仕事の大変さに途中で何度も投げ出そうと私だけでなく、総務の2年全員が思ったはずですが、一人では解決できないことはみんなで意見を出し合い、助け合いながら乗り越えることができました。



## コンサートセクションチーフとして活動して

人間科学部人間科学科保育子ども専攻3年 林 紗良

コンサートセクションはかえで祭当日の警備などの仕事以外にも、当日をむかえるまで、業者を決定し、アーティストを絞り、アーティストのイメージをもとにチケットや体育館の装飾などを作成します。ただ自分が呼びたいという理由ではなく、大学のイメージや予算など様々な視点からアーティストを決定します。またチケットの販売方法についても平等に、かつ多くのお客様に手にとっていただけるようにより良い方法を検討します。自分たちだけではなく、業者の方やアーティスト、学生支援課の方など沢山の関わりのもとで行うため、様々な状況を仮定して念入りの準備が必要であり、2日間のかえで祭のために自分の時間を全て費やしました。また当日には予期せぬハプニングが起こることもあります。友達でもなく、全く知らない方…中には年上の方もいらっしゃいますが、クレームの対応や注意の仕方など“これで良いのだろうか？”と思うことや反省することなども多々ありました。しかし、その中で責任感やリーダーシップを含め自分自身が確実に成長していることを実感できると思います。



このほか、パンフレットやポスターなどを作成する広報セクション、物品協賛・広告協賛を頂く渉外セクションがあります。

## 東洋英和女学院大学 名誉教授授与式を挙りました

東洋英和女学院大学名誉教授授与式が十二月十四日(水)十六時三〇分から五号館五〇一教室で行われ、五名の先生方に名誉教授の称号が授与されました。

授与式後には、記念シンポジウム「東洋英和女学院大学のルーツと未来」というテーマで、お一人ずつお話ししていただきました。

今回、名誉教授の称号を授与されたのは、次の方々です。

芝 恭子 保育学

人間科学部 人間科学科  
一九九九.三.三一退職

岡田 洋子 児童心理学

人間科学部 人間科学科  
二〇〇三.三.三一退職

大嶋 恭二 社会福祉学

人間科学部  
人間福祉学科  
二〇〇八.三.三一退職

鮑戸 弘 社会心理学

人間科学部 人間科学科  
前学長  
二〇一〇.三.三一退職

三橋 利光 国際社会学

国際社会学部  
国際社会学科  
二〇一三.三.三一退職

二〇一三.三.三一退職



2011年5月7日～5月13日の一週間、宮城県南三陸町志津川高校避難所でボランティア活動に参加した在学生のメッセージをご覧ください。

### 被災地ボランティアを経験して

自分がお母さんになった時に、子どもに震災の時に何をしていたかを聞かれて、答えられないのが嫌だった。この時期にボランティアに参加できたことは、人生の中で大きな経験となった。肌で感じ、汗をかき、言葉を交わし、泣いたり笑ったりする中で大切な宝物を頂いた。ボランティアとして自分はどんな行動を取るべきかという問いを何十回もしてきた。「本来、私たちはこの土地にはいなかった人間。いずれはこの町の人の力だけでもう一度生活していくことになるのだから、全部助けることはボランティアにはならない」。そう言われてから深く考えるようになった。「大好きな自分たちの町にもう一度住みたい」という人々の心の柱を、ボランティアと一緒に寄り添って支えていくことが、大切になる。震災の記憶が風化していくことが一番怖い。活動で感じたこ

人間科学部人間科学科人間文化専攻4年 大高 裕香

とを周囲の人と共有し、継続的な支援の輪を少しずつでも広めていくようにこれからも努めたい。

大高さんの活動中の写真が2011年9月10日の日本経済新聞に掲載され、東日本大震災報道写真ギャラリー「記憶 忘れてはいけないこと2」に掲載されています。



大  
学

### 生涯学習センターのご案内

本学では、生涯学習時代における高等教育機関としての役割を積極的に果たすために、開学以来、社会人女性を対象とした入試を実施するだけに留めず、1993年には社会人を対象とする夜間大学院を設立するなど、社会人教育に力を入れてきました。そして、1997年には、高まる社会人教育、学習機会の多様化のニーズに応えるため、主に一般の方を対象とした生涯学習センターを設立しました。

当初、講座数32、受講生630名でスタートした生涯学習センターは、2011年には横浜・六本木両キャンパスにおいて、文芸・教養、語学、音楽・アート、スポーツ・フィットネス、子育てネットワークの分野から80種類を超える講座を開講し、受講生も1,600名を超えるまでになりました。その他にも受講生の向学心に応えるため、本学人間科学部及び国際社会学部の一部の講義を一般公開するなど、幅広い学びの場を提供し、好評を得ています。

2012年もさらに講座を充実させ、皆様のご受講をお待ちしています。



英語再入門



ハワイアンフラ



楽しいハンドベル

### 2012年度新講座のご案内

横浜 キャン パス	アジア太平洋の地域主義の動向と日本外交 聖書に学ぶ哀悼・慰めから再起への道 21世紀の個人と地球社会 一人類の歩みの中で－ 植物を楽しむ方法 シダ、花、民俗－ ギリシャ語入門I・II やさしい英字新聞を読んでみよう 歌を学習する 女声コーラス「プリマヴェーラ東洋英和」 ポップアップ(とびだす絵本)づくり フラワーコーディネートコース 季節を楽しむプリザーブドフラワーコース 骨盤調整ヨガ エアロビクス&ストレッチ フラメンコで健康体操
	六本木 キャン パス

東洋英和  
幼稚園



祖父母の会

- 祖父母の会 9月30日(金)  
一三七名の祖父母の方々をお迎えし、五歳児が開いた遊び場、劇、休憩コーナーを楽しんでいただきました。お母様方による布の絵本の公演やハンドベルの演奏も大好評でした。
- 父と遊ぶ日 10月15日(土)  
三・四歳児とお父様が小学部の体育館で身体を存分に動かしてゲームを楽しみ、感謝の気持ちを込めた手作りのプレゼントをお渡ししました。
- 創立記念日礼拝 11月4日(金)  
五歳児は中高部のメモリアル・チャペルで、三・四歳児は幼稚園ホールで、宣教師の先生方のお働きを覚えて保護者の方々とともに礼拝を守りました。
- りんご園遠足 11月11日(金)  
五歳児が上田市のりんご園に出かけ、りんごを収穫しました。

大学付属  
かえで  
幼稚園



創立記念日音楽会

- 五歳児追分キャンプ 8月31日(水)～9月2日(金)  
追分寮で友だちと先生との生活をゆったりと楽しむことができました。
- 四・五歳児ファミリーデー 10月15日(土)  
雨の日でしたので、大学体育館にてご家族の方と共にからだをいっぱい動かして過ごしました。
- 三歳児オープンデー 10月17日(月)  
子どもたちの遊びの世界に保護者の方が入ってくださいました。
- 創立記念日礼拝・音楽会 11月7日(月)  
東洋英和の枝のひとつとして、「敬神奉仕」の心を受け継いで歩めることを願い礼拝をしました。礼拝後には、お母さま方による音楽会を楽しみました。

小学部



秋の遠足

- コース別集団下校訓練 9月2日(金)
- 心とからだの勉強会3年～6年 9月8日(木)  
聖路加国際病院の細谷亮太先生に、命について、そして、助け合って生きるといふことについてお話をうかがいました。
- 五年社会科見学 日産自動車・追浜工場 9月20日(火)
- 秋の遠足 9月22日(木)  
低学年…上野動物園  
中学年…多摩動物園  
高学年…高尾山
- 球技会週 9月26日(月)～30日(金)
- 徒歩帰宅訓練 10月13日(木)
- 二年生活科 10月25日(火)  
仙川の永野農園にておいもほり
- 創立記念日礼拝 11月7日(月)

中高部



楓祭一家庭科：高二浴衣展示

- 体育祭 10月8日(土)  
秋晴れの空の下、広々とした大学のグラウンドでリレー、玉入れ、綱引き、ダンス等が行われました。今年の優勝は黄色の3組でした。
- 楓祭 10月21日(金)～22日(土)  
今年のテーマは「鍵」1123コの鍵」。大講堂のステージや教室展示等で、各クラブが活動の成果を発表しました。入場者は六二八四名でした。
- 創立記念日式典 11月4日(金)  
礼拝で一七七年の学院の歴史、建学の精神を再確認しました。
- 中学部球技会 11月22日(火)  
バスケットボール、バレーボール、卓球の種目別クラス対抗です。中1の部は1組、中2・3の部は中3-3が総合優勝しました。

大学  
大学院



9月21日の台風で倒されたキャンパスの木

- (大学)  
台風のため全学臨時休講 9月21日(水) 午後  
強風によって、木が倒れる、ガラスが割れるなどの被害がありました。
- 公募制推薦入試、同窓会子女枠特別推薦入試、編入学試験 10月23日(日)  
かえで祭 11月2日(水)～3日(木・祝)  
テーマは「Energy」。昨年より多くの人が訪れました。
- 保護者と教職員の懇談会 11月3日(木・祝)
- 指定校推薦入試 11月12日(土) (大学院)
- 大学院入試 人間科学研究科臨床心理学領域 9月10日(土)、9月18日(日)  
国際協力研究科 9月10日(土)

三英和懇談会が開催されました

今年度もカナダ・メソジスト教会婦人伝道ミッションによって設立された三つの学院が集う、三英和懇談会が10月15日(土)に山梨英和大学で開催されました。例年この会合は七月に開催されますが、今年度は東日本大震災のため延期となり、この時期の開催となりました。

山梨英和学院・静岡英和女学院の役職者の方々とともに、本学院からも池田守男理事長・院長、村上陽一郎学長・副院長、吾妻國年副院長をはじめ各部代表者が出席し、総勢二九名が集いました。

全体会では各学院の現状と課題について報告があり、情報交換会では「管理運営」「大学」「中学・高校」の三グループに分かれ、姉妹校としての情報交換を行い、充実した時を持ちました。



計報

— 心より哀悼の意を表します —

高野 陽氏 元大学教授・名誉教授

二〇一一年一〇月二〇日

後援会役員懇談会が開催されました

後援会役員八三名と池田守男理事長・院長をはじめとする学院側三四名の出席のもと、総会と並ぶ後援会二大行事である「役員懇談会」が、昨年10月14日(金)にANAインターコンチネンタルホテル東京で開催されました。

学院全学部を八つの小グループに分け、各部の後援会役員と教員が学院生活に関して忌憚のない意見交換を行い、加えて学院や教職員へのご意見やご要望をお聞かせいただく会がこの役員懇談会です。学院とご家庭の理解と協力の絆を強める事はもちろんの事、学院が今後進むべき方向を模索する上での貴重な意見交換の場として大きな役割を持つ会となっております。

当日は、後援会役員から学院の教育や生活面での指導に対する感謝の言葉が伝えられるとともに、学院の教育方針や通学時の安全確保、災害に対する備え(学院の備蓄品、連絡手段等)などについて後援会役員と学院の間で活発に意見交換が行われました。



史料室レター ⑥ 『日本人になった婦人宣教師—亜武楽マーガレット』



ミス・アームストロング

今回は、昨年11月に刊行されたミス・アームストロングの評伝のご紹介をいたします。ミス・アームストロングはカナダメソジスト婦人宣教師として1903年来日しました。富山に根をおろして青葉幼稚園を開き、十数園の分園をつくってキリスト教幼児教育を行い、日曜学校やパイブルクラスを通じて多くの人々に福音を伝え、カナダ婦人宣教師の中ではただ一人日本に帰化した方です。来日当初1年間東洋英和で英語を教え、最初の赴任地上田で5年間の伝道活動中、開設された上田保姆傳習所(短大保育科のはじまり)で幼児教育と保姆養成を間近に経験しました。

ので常に長いコートを身につけていたそうです。けれども、日本文化を受け入れ、相手を丸ごと受け止める「アーム先生」は人々に慕われるようになり、矯風会活動や婦選運動、平和運動にも関わった彼女は富山の次世代を担う若者達を育てました。野鳥の愛好家としての著書もあります。1941年に帰化して日本にとどまった彼女は富山の空襲に遭って命からがら逃げ惑い、戦後は通訳としてGHQと地元の間で日米の架け橋となって大きな功績を残しました。

マイノリティの視点を忘れない著者の堀江節子氏は、数々の新聞記事や証言を通し、命をかけて神の福音を伝え平和をつくるために生きた一人の婦人宣教師の足跡を、彼女の原点を常に問い直しながらとどめています。生き生きと描き出されたミス・アームストロングは、富山にまかれた「一粒の種」であり、また同時に「種まく人」であったと感慨を覚えます。是非一読をお薦めいたします。



『日本人になった婦人宣教師』堀江節子著 桂書房 (地方小出版流通センター扱い) この本の作成時に史料室からレファレンスおよび史料の提供をしました。

富山は東京とは異なり仏教の盛んな土地柄のため、抗議されたり石を投げられたりすることもあった

全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

マルコによる福音書 一六章一五節



学院創設者 ミス・カートメル

一八八一年、十一月八日、カナダ・ハミルトン市のウエスレー女子大学において開かれた会議で「カナダ婦人ミッシヨン」が結成された。先にウエスレーアン・メソジスト教会から日本に派遣されていた二人の男性宣教師からの「日本に婦人宣教師を送ってほしい」という強い要請を受けての結成である。二人の男性宣教師は、日本女性の社会的立場の弱さを目の当たりにして、女性に直接働きかけることのできる婦人宣教師の派遣が急務であることを訴えた結果、カナダの女性達が立ち上がったのである。この時、掲げられた標語がマルコによる福音書一六章一五節。そしてその翌年、日本への婦人宣教師としてミス・カートメル（後に東洋英和女学院初代校長となった）が任命された。カートメルは「み心ならば私をお遣わしてください」と即刻、受諾した。既に日々、そのように祈っていたカートメルの神への応答であった。

安行教会牧師

東洋英和女学院評議員

大学・小学部非常勤講師

田中 かおる

都心の喧騒を離れて—こころの相談室を訪ねました。

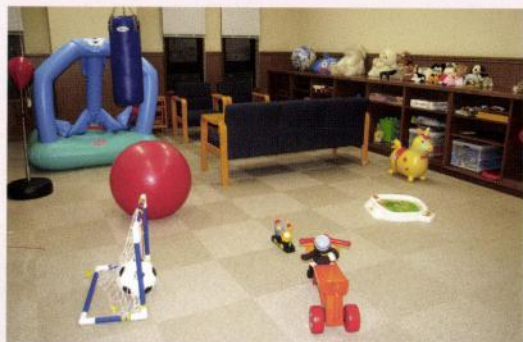
複雑化する現代社会、人の心も疲れてしまうことが多いようです。そういった問題に取り組みべく、一九九七年に「東洋英和こころの相談室」が開設されました。相談室は六本木校地の本部・大学院棟地下二階にあります。

大学院の研修機関も兼ねているため、大学院生がスタッフとして在籍し、教員がその指導を行っています。平日は夜の八時まで、土曜日にも開いているため仕事を持った人でも通いやすくなっています。東洋英和の相談室の特徴をうかがったところ、「六本木の都心にありながら緑の多い静かな環境のため、ゆったりとした話し合いの時間がもてます」とのことでした。また、大学院生が担当するため比較的安価で相談を

受けられます。小さな子どもから大人まで、英和の関係者だけでなく地域の方々も利用できます。

箱庭のある部屋に案内していただきました。さまざまなキャラクターのフィギュア、動物や植物などのオブジェが並んでいます。こうしたアイテムが心のあり方を解いていく鍵となるのでしょうか。子ども向けの相談室、プレイルームはおもちゃで遊ぶ子どもの姿を通して相談を進めるようになっています。

お話をうかがった先生方は皆さん、穏やかなやさしい口調で対応くださいました。「敬神奉仕」をモットーとする学校が、広く社会に開いた相談室を設置していること、意義を考えるよい機会となりました。



子ども向けのプレイルームは4部屋あります



箱庭の部屋にはたくさんのフィギュアが用意されています



「こころの相談室」開室日と時間

月～金曜日	午後2時～午後8時(木曜日は1時開室)
土曜日	午前9時～午後6時
日曜日・祝日	休室

どなたでも入室できます。(完全予約制 TEL 03-3583-7463) 子どもの問題、対人関係などお困りのことがありましたらご相談ください。

※ 個人情報の保護に関する法律を遵守し、相談の秘密が守られるように細心の注意を払っております。

# 英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.27

(最終回)

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)

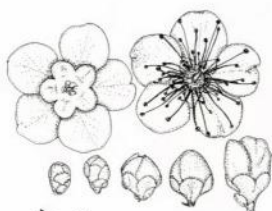


アスカイノデ (横浜キャンパス)

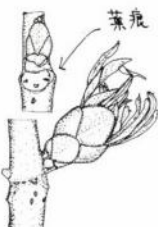
## アスカイノデ (飛鳥猪の手)

冬枯れの季節に、スギやヒノキの林床で、拳より少し大きい毛むくじらのかたまりを発見。目を近づけて見ると、一つひとつの芽が上手に輪になり、春に備えてもう動き出し始めている。芽は生長するに従い、まさに妖精達の舞いを彷彿する動きを演じる。この躍動的な舞いを、是非とも多くの方に見てもらいたい。

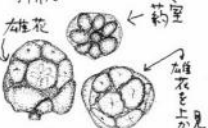
このかたまりは、シダ植物のアスカイノデ。英和の森の大切な一員。シダ植物は花も実も付けないが、林の中で、このかたまりをじっとながめる一時は、まさにこの連載の副題である「目を近づければ楽しさ無限」を実感する。



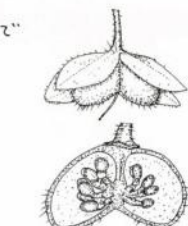
ウメ  
蕾がだんだんと膨らんでいく様子も見たい。



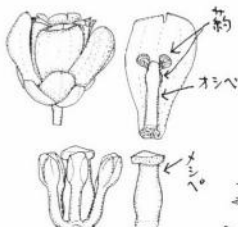
ニワトコ  
冬芽の表面はつやのある紫色。若い葉は山菜として利用。



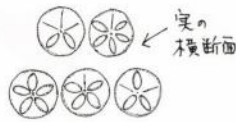
イチイ  
雄花は雌花と見えていく。まるでワックスの芯にそっくり。



オオイヌノフグリ  
もう実を付けている。実の中のものを見て見ました。



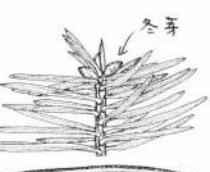
ヒラギナンテン  
オシベに穴が開くとメシベの方に曲がる(内曲運動)。



ヤツデ  
実の中のタネの数をみると変化あり。



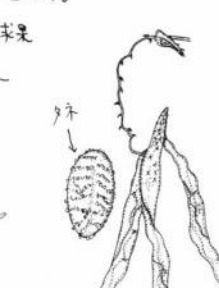
ヒノキ  
林の中に小さなサッカーボールが一杯。



ウラジロモミ  
冬芽は全株を覆うほど樹脂で保護されている。



ヒメシヤリントウ  
赤い実を付けている。冬の時期、息に土人にも目立つ。



カラスノゴマ  
実の表面に産状もあり。熟すと裂片に分かれる。

## 中池敏之先生の連載「英和の植物通信」が最終回となります



中池敏之先生が3月で大学をご退職のため、「英和の植物通信」は今回の楓園67号で最終回となります。楓園41号(2005年9月30日発行)からスタートしたこの連載の、先生ご自身による写真、微細な線描画、そして植物と人間の生活との関わりにまで及ぶ記述には、学内だけでなく学外にも多くのファンがいました。

6年間にわたる中池先生のご尽力に感謝申し上げます。 —広報委員一同—

※「英和の植物通信」などをまとめた中池敏之先生の本が今年学院より刊行される予定です。ご期待ください。

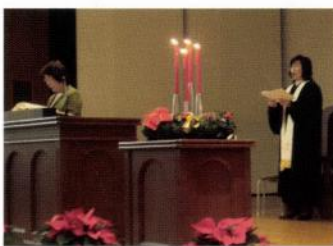
## 東洋英和女学院学院報 楓園 第67号

発行日：2012年2月7日  
編集：広報委員会  
発行：学校法人 東洋英和女学院  
東京都港区六本木 5-14-40  
TEL 03-3583-3325  
メールアドレス  
koho@toyoeiwa.ac.jp  
ホームページアドレス  
http://www.toyoeiwa.ac.jp

二〇一一年十二月三日(土)、朝からの雨にもかかわらず、二百名近い皆様と共に中高部の新マーガレット・クレイグ記念講堂において同窓会のクリスマス礼拝が行われました。

説教者には吉岡康子牧師(青山学院女子短期大学宗教主任・一九七九年高等部卒)をお迎えし「痛みのなかに」と題して特に被災地を覚える中で、クリスマスを迎える意味をお話いただきました。

三月十一日の夜、全てを失った被災地を照らしたあの星の美しさは、み子の誕生を知らせたあの星の様に神との出会いを導く光であり、神様の慰めが深く沁み届く今年のクリスマスであるようにとのメッセージに祈りを合わせました。



吉岡康子牧師(右)による説教



横山和美さんの独唱

今年(年輪の若い会員のお姿が多く見られました。六つの同窓会が協力して準備する学院同窓会のクリスマスに是非皆様もいらしてください。

年高等部卒)の独唱を楽しませて頂きました。伴奏は母上美枝様が和美さんの独唱を支え、父上和彦様が共演くださいました。「育てて頂いた母校のこの講堂で歌えることが何よりの喜び」とおっしゃる和美さんのソプラノは、二十歳のお誕生日の喜びも重なって特別に美しく響きました。